厚生労働科学研究補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

# 地域における循環器疾患発症及び重症化予防に対する取組の推進のための研究

研究分担者　泉　知里　国立循環器病研究センター
研究協力者　高濱博幸　国立循環器病研究センター

研究要旨
心不全患者における、標準治療後安定期の脳卒中リスクについてはほとんど知られていない。心不全に対して標準治療を受けている患者の、退院後の虚血性脳卒中の頻度とそれに関わる因子について明らかにすることを目的に、950 例の心不全入院患者で心不全に対して標準治療を行った患者を対象に、退院後 2 年間経過観察を行い、その後の虚血性脳卒中のイベントを調査した。2.6%の症例にイベントが発生し、心房細動および相対的壁厚、左室心筋重量が関与し、求心性肥大の形態を示す症例がハイリスクであった。肥大による拡張不全、それに伴う左房リモデリングが関与している可能性が考えられた。

## A.. 研究目的

心不全に対して標準治療を受けている患者の、退院後の虚血性脳卒中の頻度とそれに関わる因子について明らかにすること

## B. 研究方法

950 例の心不全入院患者で心不全に対して標準治療を行った患者を対象に、退院後 2 年間経過観察を行い、その後の虚血性脳卒中のイベントを調査した。

（倫理面への配慮）

オプトアウトにより同意を取得。国立循環器病研究センターの倫理員会で承認をうけた。

## C. 研究結果

2.6%の症例にイベントが発生し、心房細動および相対的壁厚、左室心筋重量が関与し、求心性肥大の形態を示す症例がハイリスクであった。

## D. 考察

心不全患者における、標準治療後安定期の脳卒中リスクはやはり高く、求心性肥大がそのリスク因子であったことから、肥大による拡張不全、それに伴う左房リモデリングが関与している可能性が考えられた。

E. 結論

心不全入院歴がある症例において、左室求心性肥大が虚血性脳卒中発症の有意な危険因子である。

G. 研究発表

1. 論文発表

Heart Vessels. 2020;35(4):564-575

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得　なし

2. 実用新案登録　なし

3. その他